

## 記者が見た被災地

### ■仙台市若林区



1歳の長女桜ちゃんと避難所にいた佐藤美紀さん。頬肉の緊張を和らげる「汽車ぽっぽ」の体操を医療チームから教えてもらった

東日本大震災の被災地に派遣された医療班に同行し、4月末、仙台市若林区の避難所を回った。医師や看護師ら人は、青川労災病院（青川）の所属。健診不安をなかなか打ち明けられない被災者に、細やかな心配りで接する医師の姿が印象に残った。

◆汽車ぽっぽ体操 らいののか。正面、緊張 「こんな音楽を掛けたことがある」。出発前、医師

【矢島司】 桜ちゃん（）と一緒にいっておられた。自宅は残ったが夫井が崩壊。美紀さんは桜ちゃんを背負い、止付け

避難所の人々は、とても幸抱強がった。どうすれば被災者が気絶に相談され、医師が目立つと、美紀さんは冒頭の問題の一つだった。

日中の避難所は人が少しあるが、授乳

班を見つけると「先

生かし、痛みや不安を和らげたい。そんな医療班

を話した。

山文彦さん（49）は脚の内

らぎたい

に医療班

を振った。

の思いを感じた。小山医

院（）と天ざく手

を振った。

師は「医者の初心を思い出した。被災者の方々に

届きませ

れました。被災者を傷つけないよ

うに取扱うにはどうす

るか」と苦痛に頭をゆ

がめた。自宅は津波で

沈没。毎日、家族總

に抱き合

った。

◆写真撮って

被災者を傷つけないよ

うに取扱うにはどうす

るか」と苦痛に頭をゆ

がめた。自宅は津波で

沈没。毎日、家族總

に抱き合

った。

◆写真撮って

被災者を傷つけないよ

うに取扱うにはどうす

るか」と苦痛に頭をゆ

がめた。自宅は津波で

沈没。毎日、家族總

に抱き合

った。

◆写真撮って

被災者を傷つけないよ

うに取扱うにはどうす

るか」と苦痛に頭をゆ

がめた。自宅は津波で

沈没。毎日、家族總

に抱き合

った。

## 打ち明けられない健康不安

### 医師、細やかな心配りで応対

中で腹痛できないことを相談した。

「腹を痛めて頭を前後

外しているからだ。午

前10時、小学校の体育館

で、笠松秀子さん（88）が

をする」と、樂になります

横になっていた。体調が

悪そうだが、医療班には

すると、他の被災者か

ら笑いが起きた。美紀さ

んも一緒に「汽車ぽっぽ

休操」をしてアハハッと

明るく笑った。

片隅にピアノがあっ

た。医師が診察室を下げ

たまま弾くと、「姫は生

まれて初めて、ピアノの

音楽を聽きました」と美

紀さんは感激した様子だ

った。

あらゆる知識と経験を

ない。がれき撤去などでぶれるためできること

揃った。「少しでも添け

るお年寄りにとって、歩

くことほりハビ」。非常

方じ、痛みが続けば通院

することを勧めた。

翌朝、笠松さんは起き

来た。医療班を見つけて

声を掛けた。「お

はなさを痛感した。

「もうと写真を撮って」「

と太田さんに言われた。

意外に思って理由を聞く

と「津波で全部なくな

っちゃったから」という。

カメラを向けると、び

きの笑顔を見せてくれ

た。ここで懸命に生きる

人たちの記録を残そうと

心に決めた。写真は鳥取

後、手紙と一緒に速達で



【写真】写真を撮って」とびきりの笑顔を戻せてくれた太田小春さん